

第一回 茅ヶ崎市地域公共交通会議（2/14） 会議録要旨

（1）茅ヶ崎市における公共交通の現状とこれまでの取り組み

- ・茅ヶ崎市の地域公共交通会議での検討内容の特徴は、自転車を重視していることであり、総合交通プランの中で歩行者、自転車、公共交通を重視している。バスだけの議論をするのではなく、自転車を扱っていくことをしっかり説明すべきである。（委員）
- ・茅ヶ崎市内の各交通モードがどのような役割を担うべきか、どのように棲み分けを行っていくべきか、今後議論を重ね整理していく必要がある。（委員）
- ・自転車事故が県内でも多い部類であることは課題となるが、茅ヶ崎市の場合は自転車利用者が多いことが考えられ、利用が多いために事故も多く発生しているという考察ができることに注意が必要である。（委員）
- ・自転車レーンなどの走行空間についても今後に向けて検討していかなければならない。（委員）
- ・資料に示す各種データについて、いくつか説明が不十分な内容があるため、補足する必要がある。（委員）

（2）地域公共交通会議の改善に向けた現在の取り組み

- ・バス路線再編においてワークショップなどで検討を進める際には、議論すべき焦点を誤らないよう、運賃の変更可否、サービスレベルの変更可否とその程度、といった前提条件を設けた上での議論が必要になる。（委員）
- ・北部循環市立病院線の再編の方向性は、最初からデマンド交通ありきの議論ではなく、どのような条件でデマンド交通が考えられ、北部地域で選択し得る交通モードはどのくらいあるか、という議論が必要となる。（委員）
- ・東部循環地域には路線バスが運行しているので、路線バスの利便性向上は渋滞対策などがあつたうえで、コミュニティバスの議論を行うべきである。コミュニティバスに限らず、あくまで乗合交通全般についても本会議で議論していくべきである。（委員）
- ・既存バスの改善で何ができるか、コミュニティバスはどこを補完すべきかという議論を行う必要がある。（委員）
- ・目標年次などを踏まえた議論も必要である（委員）
- ・地域公共交通会議として相模線は取り扱うのか。広域路線という位置づけだけでなく、香川駅や北茅ヶ崎駅ではコミュニティバスと関連するため、議論の対象とすべきでは

ないか。(委員)

- ・信号などを含めた交差点の右折レーンの問題、バスの定時性の問題など、地域公共交通に関連した課題も議論すべきである。(委員)
- ・目標年は乗合交通整備計画の目標年である平成 32 年、さらに人口推計でもピークになる同年に向けて取り組んでいきたい。相模線は 4 市 1 町での検討となるため、本会議では茅ヶ崎市内の交通に特化して検討していきたいが、駅についてはバスとの連携面も含めた検討をしてまいりたい。(事務局)